

実験廃液・廃油・不要薬品の処理に関する手引き

実験廃液・廃油の分類

1 無機系廃液を次のように分類する。

1) 金属イオンを含むもの

A 特別管理有害物 (Hg、Cr、Pb、Cd、As、Se はそれぞれ個別に単体で集める。)
水銀廃液(A-1)、クロム廃液(A-2)、鉛廃液(A-3)、カドミウム廃液(A-4)
砒素廃液(A-5)、セレン廃液(A-6)

B 特別管理廃酸・金属

pH2.5 以下で Hg、Cr、Pb、Cd、As、Se 以外の金属イオンを含むもの
(どんな酸、金属イオンが入っているかを明示すること)

C 特別管理廃アルカリ・金属

pH12.5 以上で Hg、Cr、Pb、Cd、As、Se 以外の金属イオンを含むもの
(どんなアルカリ、金属イオンが入っているかを明示すること)

D 廃酸・金属

pH2.5～7 で Hg、Cr、Pb、Cd、As、Se 以外の金属イオンを含むもの

E 廃アルカリ・金属

pH7～12.5 で Hg、Cr、Pb、Cd、As、Se 以外の金属イオンを含むもの

2) 廃酸・廃アルカリ (金属イオンを含まないもの)

F 特別管理廃酸 (pH2.5 以下の廃酸、互いに反応しない酸は混ぜても良い)

G 特別管理廃アルカリ (pH12.5 以上の廃アルカリ)

H 廃酸 (pH2.5～7 の廃酸、少量なら中和して流して良い)

I 廃アルカリ (pH7～12.5 の廃酸アルカリ、少量なら中和して流して良い)

3) 廃フッ化水素酸

J 短期間ならそのまま保存しても良い (J-1)

長期間保存する場合は、中和して塩の水溶液として保存 (J-2)

4) 写真廃液

K 現像液 (アルカリ性廃液)

L 定着液 (酸性・重金属廃液)

5) 上記以外の廃棄物 (シアン系、放射性物質等) は、使用前に校長に届け出ること。

2 有機溶剤系廃液・廃油は次のように分類する。

M 特別管理廃油 (引火点が 70℃ 未満)

ガソリン、灯油、軽油等

N 可燃性有機溶媒

石油エーテル、アセトン、メタノール、エタノール、ヘキサン、トルエン等

○ 水分を 5 % 以上含む有機溶剤

 P ハロゲンを含む有機溶剤（特別管理有害廃油）

 四塩化炭素（単独で保存）（P-2）

 その他の塩素を含む廃液（それぞれ種類別に保存）（P-2）

 Q 廃油

 鉱物油（重油、その他の機械油）、動植物油

実験廃液・廃油の保管、搬出

1 保管

 廃液の分類毎に、10 ℓ又は 20 ℓのポリタンク等適切な容器に入れて安全な場所に各実験室・研究室の責任で保管する。少量の場合はガラス瓶に入れて保管しても良い。可燃性有機溶剤の容器には火気厳禁表示をする。劣化したポリタンクは保管中に破損する恐れがあるので使用しない。

2 廃液の表示

 各廃液容器には、内容物の主成分、共存物質を明記する。容器に明記しにくい場合は、別に管理ノートを作成し記録する。内容物不明の廃液に決してならないよう注意する。

3 搬出

 年 1 回各実験室・研究室に管理している廃液を処理業者に引き渡し、処理する。
 廃液の搬出日は、別途会計課から連絡する。

不要となった試薬の廃棄

 不要となった試薬は、処理業者に処分を委託する。

 不要試薬の回収は、別途会計課から連絡する。